

卷末資料 1

面的な暑熱対策に関する地方公共団体等へのヒアリング結果

面的な暑熱対策の推進に関するヒアリング

東京都環境局地球環境エネルギー部環境都市づくり課 古川 幸一郎 氏、池田 萌子 氏

日時：2019年10月9日（水）10:00～11:00

聞き取り者：環境情報科学センター 石丸、嵐

面的な暑熱対策の推進、適応策の計画的な推進について、クールスポット創出支援事業や東京2020大会に向けた暑さ対策推進事業などを進める東京都環境局地球環境エネルギー部環境都市づくり課にヒアリングを実施した。

1. 面的な暑熱対策の推進について

- ・現在進めている面的な暑熱対策のニーズは、東京2020大会に向けたインバウンドを含めた観客などに対するおもてなしとしての側面が強い。そのため、クールエリアの選定はオリパラ競技場近くで行うことを重視している。各特別区に範囲指定をかけてもらい、予算には限りがあることも踏まえ、にぎわいのある場所で重点的に実施している。
- ・平成29年度に実施した中央区の場合、銀座大通り付近のクールスポットについては、人の流れをクールスポットが中継するように設置され、まちなかの面的な暑熱対策を具現化しているのではないかと考えられる。
- ・暑熱対策設置後の定量的な効果検証までは実施していないが、補助事業で導入した暑熱対策はその後も継続して実施されており、補助対象事業者への聞き取りによると、利用者からは良好な評価を得ているとのことである。その意味では、環境基本計画における「真夏に人々の感じる暑さが軽減されるエリアが増加している」という目標に向かって進んでいると認識している。
- ・クールスポット、クールエリアについてはレガシーとして残していきたいと考えており、公的な補助による推進から民間による自主的な取り組みへと移行したいと考えているが、多くの課題がある。例えば、暑熱対策を設置するための十分な土地を有する民間事業者は少なく、公的な場所で広く実施するには多くの関係機関への許認可手続きが必要になり、民間事業者が暑熱対策を進める際の大きなハードルとなっていると感じる。

2. 東京都環境基本計画における目標の進捗管理について

- ・現在、暑熱対策は「2020年に向けた実行プラン」のなかで事業実施状況を年1回レビューし、進捗状況を公表している。
- ・クールエリアについては、2017年度が2エリア（中央区、調布市）、2018年度が2エリア（千代田区、港区）、2019年度は4エリア（台東区、江東区、世田谷区、渋谷区）で実施。
- ・遮熱・保水性舗装については、2016年度が約106km、2017年度が約116km、2018年度が約129km（いずれも累計）となっており、2020年の目標は約136kmであり、概ね達成の見込みである。
- ・暑熱対策の効果を客観的に評価する方法については定めていないが、施策の進捗状況、すなわちクールエリアの増加数や遮熱・保水性舗装の整備状況で評価している。

- ・現在は来年の東京 2020 に向けた施策展開に重きが置かれているが、個人的には対処療法的な暑さ対策だけではなく従来からのヒートアイランド対策についても進めていくことが重要と考えており、その地道な努力が環境都市づくりにつながると考えている。

以上

面的な暑熱対策の推進に関するヒアリング

大阪府環境農林水産部エネルギー政策課温暖化対策グループ 松山邦圭氏 花井舜平氏

日時：2019年10月25日（水）10:30～12:00

聞き取り者：環境省大気生活環境室 永田佳之様

環境情報科学センター 石丸、嵐

クールロード、クールスポットなど、まちなかの暑さ対策に関連して数多くの施策を展開されており、まちなかの暑さ対策の実装状況、その効果、課題などについて大阪府環境農林水産部エネルギー政策課温暖化対策グループにヒアリングを実施した。

1. まちなかの暑さ対策の実装状況について

- ・一般向け・高齢者向けといったターゲット別のチラシ（啓発資料）を作成し、一般向けのチラシについては、5万枚作成し、府立高校・小中学校・幼稚園・公民館などの公的機関・イベント等で配布。高齢者向けのチラシについては、2万枚作成し、市町村の地域包括支援センター・民生委員等に配布。チラシの特色としては、文字数を減らし、文字を大きく、読みやすくすることで伝えたいことを明確にしたことである。庁内でデザインを行うことで経費を大幅に削減した。
- ・「大阪府暑さ対策情報ポータルサイト」を開設。環境省の「暑さ指数メール配信サービス」を府ホームページより周知し、府民の暑さ指数情報の受信登録を促進した。
- ・可搬式の電光表示パネルを活用。屋外イベントにおいて、暑さ指数と熱中症危険度を関連付けリアルタイムに表示し、周知した。暑さ指数を色別に識別することで、府民にわかりやすく数値の「見える化」をした。
- ・暑さ対策に関する教育関係者対象セミナーおよび福祉関係者対象セミナーを実施。熱中症の発症リスクが高い、子どもや高齢者の特性に合わせた座学に加え、現場の救急隊員を講師として招くことで、リアルな視点から意見を管理者へ伝えることができた。
- ・民間企業と提携し、みどりのカーテンづくりを通じた身近な暑さ対策の取り組みを促進。小中学校・幼稚園・高齢者福祉施設等へ「ゴーヤの種」4500袋を配布した。
- ・府立学校・市町村教育委員会へ熱中症対策に関する通知とポスターを配布。また全府立学校に対して暑さ指数計をグラウンドと体育館に各1台配布（グラウンド174台、体育館178台）。
- ・広報媒体による注意喚起・啓発。府政だより（7・8月合併号）の一面に暑さに関する情報を発信。大阪府内約280万部を配布。
- ・2016年度よりクールスポットモデル拠点推進事業の開始。昨年度まで4事業を整備。2019年度は7事業採択。市街化区域内でのクールスポットの整備を推進している。
- ・大阪ヒートアイランド対策技術コンソーシアムと連携した身近なクールスポットの活用促進。府民からの応募により選定した「大阪府クールスポット100選」「大阪府クールロード100選」の活用を広く呼び掛けている。

2. まちなかの暑さ対策の効果、課題

- ・「大阪府暑さ対策情報ポータルサイト」による暑さ指数普及の結果、環境省の「暑さ指数メール配信サービス」の大阪府域の登録件数割合が 15.4%であった（日本における大阪府の人口割合は7%）
- ・大阪府内の救急搬送者数が前年度の 7138 名から 5182 名に減少した。一方で、死亡者数は 12 名から 14 名に増加した（いずれも総務省消防庁 5～9 月のデータ）
- ・おおさかヒートアイランド対策推進計画（平成 27 年 3 月策定）では、2 つの目標を立てている。
目標 1：住宅地域における夏の夜間の気温を下げることにより、地球温暖化の影響を除外した熱帯夜日数を 2000 年より 3 割減らす。
目標 2：屋外空間における既存のクールスポットの活用や創出をすることにより、屋外空間における夏の昼間の暑熱環境を改善する。
- ・上記の目標を達成することは容易ではなく、例えばまちなかに十分なクールスポットを整備するためには途方もない予算が必要になる。そのため、ハード対策としてのクールスポット整備だけでなく、ソフト対策としての普及啓発や教育セミナーなどを行っていくことで、暑さ対策や熱中症予防が大阪府に根付いていくと考えている。

3. 今後の目標

- ・2025 年万博に向けて、暑い大阪というマイナスイメージを払拭していきたい。
- ・森林環境税を活用し、都市緑化を活用した猛暑対策を実施。今後 4 年間で 100~200 か所程度、例えば駅前広場のバス停などの待たざるを得ない場所を中心に行う予定。
- ・暑さをしのぐ一時避難所として金融機関や薬局、公的機関に協力を呼びかけ涼める場所を創出する予定。

以上

面的な暑熱対策の推進に関するヒアリング

三菱地所株式会社 開発推進部 都市計画室 中嶋 利隆 氏、竹田 瑛里 氏

日時：2019年11月12日（火）10:00～11:30

聞き取り者：環境省大気生活環境室 永田 佳之 様

環境情報科学センター 石丸、嵐

面的な暑熱対策の推進、丸ビルの公開空地にて、パラソルと芝生を設置して暑さ対策の仮設的な実験などを進める三菱地所株式会社開発推進部都市計画室にヒアリングを実施した。

1. 昨年、今年の暑さ対策状況

- ・「日よけパラソル」と「天然芝」を使用した暑さ対策の有効性や課題を抽出した。
- ・「仮設本芝生」というアスファルト上に天然芝を置く新しい取り組みにより、都会に緑あふれる空間が創出された。
- ・筑波大学と共働した暑熱環境計測、都市緑化機構による緑の分析も行い「日よけパラソル」「天然芝」の科学的な向上効果や課題を確認した。

2. まちづくりにおける暑さ対策の意義と効果について

- ・主たる目的は「広場化」とそれによる来場者の「滞留」である。
- ・「天然芝」を使用したことで、アスファルトよりも表面温度が低減した。またパラソルを置いたことで、利用者が椅子をパラソル下に移動させるなどの行動もみられた。
- ・特に夕方以降に芝生が冷える効果が高いことがわかった。
- ・「天然芝」ならではの香りによりクールスポットに人々が引き寄せられたのではないかと考える。

3. 今後のまちづくりに求められる暑さ対策について

- ・丸の内のブランドを体現させる場所であり、「グリーンインフラ」として仲通りを活用していくことが重要である。特に仲通りには豊かな緑陰空間があり、涼しい場所・道路を視覚化していくのも効果的ではないかと考えている。
- ・環境から健康へという視点を持ち暑さ対策をしていくことが重要ではないかと考える。
- ・「夕涼み」に焦点を置き、夕方以降の屋外の時間の使い方を考え、気温が下がった時間に屋外で活動していただく仕組みを整えることも有効だと考える。

4. まちづくりの一つとして暑さ対策を進める場合の課題について

- ・日射の影響で芝生が枯れてしまった。今回複数種類の芝生を設置することで暑い夏に耐えうる芝生の選定実験も行った。しかしながら、一定数の芝生は枯れてしまうため、生き物（芝生）の使い捨てにならないような工夫が必要である。
- ・イベント後も新しい場所に芝生を移植し、再生させられるようにすることも重要となってくる。
- ・適材適所で人工芝等も使用し、費用をかけた最高のものだけを求めるのではなく、最適解を求めていくことも求められる。

- ・「夕涼み」についても道路使用などの時間的な課題があるため、地域や行政の理解も得ながら事業を進めている。
- ・技術革新だけではなく、丸の内らしい洗練されたデザインのもを設置したい。現在の対策技術製品はデザインに課題がある。
- ・今回の実証実験では国土交通省と事業を行ったが、今後は環境省とも連携できないかと考えている。

以上